

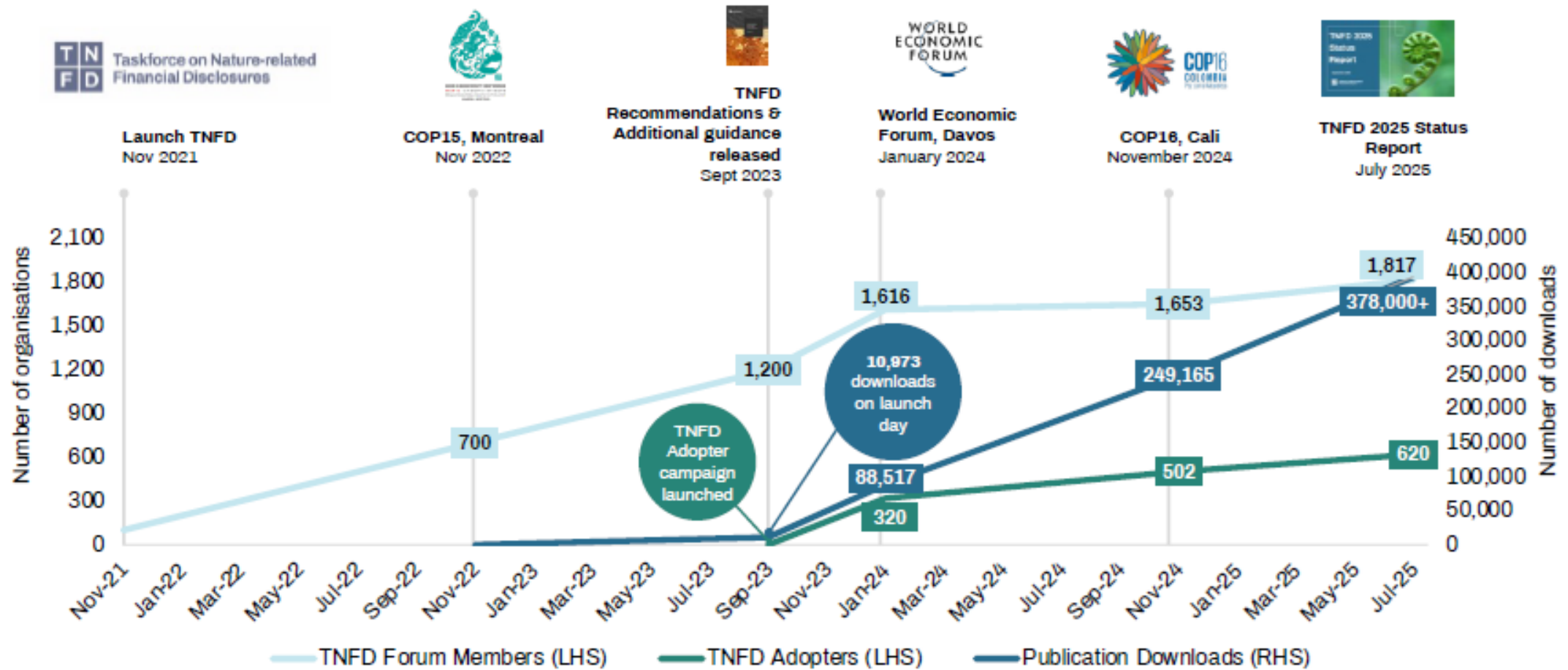


# TNFD開示と木材デューデリジェンスの統合

WWFジャパン 金融グループ長  
橋本 務太

2026年4月24日

# TNFDへの関心の高まり



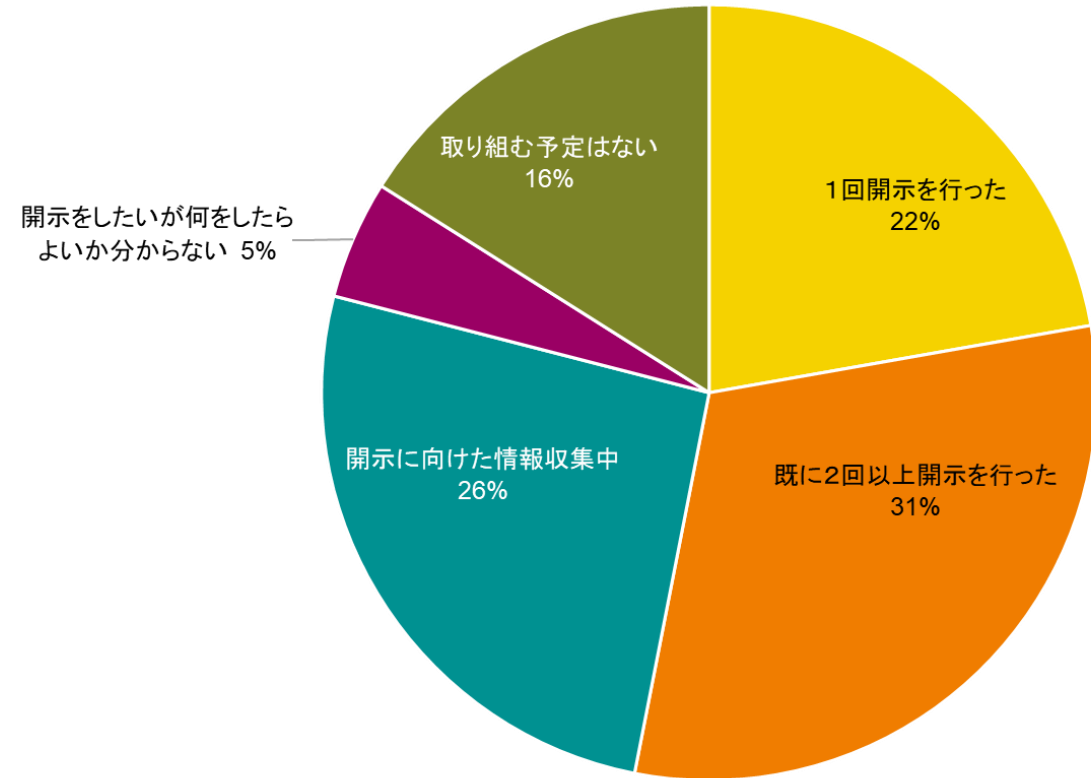
1,817フォーラムメンバー、620アダプター、500超の実際のTNFD開示（2025年7月末時点）

# TNFDでは何を開示するのか～ 開示提言：4つの柱



ガバナンス	戦略	リスクとインパクトの管理	測定指標とターゲット
<p>自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の組織によるガバナンスの開示。</p>	<p>自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、戦略、財務計画に与えるインパクトについて、そのような情報が重要である場合は開示する。</p>	<p>組織が自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けし、監視するために使用しているプロセスを説明する。</p>	<p>マテリアルな自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標とターゲットを開示する。</p>
<p><b>開示提言</b></p> <p>A. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会に関する取締役会の監督について説明する。</p> <p>B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の評価と管理における経営者の役割について説明する。</p> <p>C. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会に対する組織の評価と対応において、先住民、地域社会、影響を受けるステークホルダー、その他のステークホルダーに関する組織の人権方針とエンゲージメント活動、および取締役会と経営陣による監督について説明する。</p>	<p><b>開示提言</b></p> <p>A. 組織が特定した自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を短期、中期、長期ごとに説明する。</p> <p>B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、バリューチェーン、戦略、財務計画に与えたインパクト、および移行計画や分析について説明する。</p> <p>C. 自然関連のリスクと機会に対する組織の戦略のレジリエンスについて、さまざまなシナリオを考慮して説明する。</p> <p>D. 組織の直接操業において、および可能な場合は上流と下流のバリューチェーンにおいて、優先地域に関する基準を満たす資産および/または活動がある地域を開示する。</p>	<p><b>開示提言</b></p> <p>A(i) 直接操業における自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けするための組織のプロセスを説明する。</p> <p>A(ii) 上流と下流のバリューチェーンにおける自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けするための組織のプロセスを説明する。</p> <p>B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を管理するための組織のプロセスを説明する。</p> <p>C. 自然関連リスクの特定、評価、管理のプロセスが、組織全体のリスク管理にどのように組み込まれているかについて説明する。</p>	<p><b>開示提言</b></p> <p>A. 組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って、マテリアルな自然関連リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標を開示する。</p> <p>B. 自然に対する依存とインパクトを評価し、管理するために組織が使用している測定指標を開示する。</p> <p>C. 組織が自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を管理するために使用しているターゲットと目標、それらと照合した組織のパフォーマンスを記載する。</p>

## 事前アンケート：TNFD開示の状況



出典：自然関連財務情報開示タスクフォースの提言

※セミナーお申込者のうち、森林コモディティ扱いのある企業 (n=81)

## キーポイント1:

TNFDで開示するマテリアリティの  
選択

## キーポイント2:

4つの自然関連課題の特定、評価、  
および優先地域の特定

(2-1: 直接操業、2-2: バリューチェーン)

## キーポイント3:

ミティゲーション・ヒエラルキー  
(マイナスインプクト回避の優先)

## キーポイント4:

IPLC (先住民族と地域社会) と、  
影響を受けるステークホルダー

注目点をWWFジャパンの  
視点で4点抜き出し、  
「TNFDキーポイント」  
としてとりまとめ



## 調査で見えたこと

### ■ 良い点

- 「まずは開示する」姿勢
- 既知の情報、TCFD開示の経験の活用
- 自社拠点での自然関連情報収集の深堀り
- 原材料生産地に着目する必要性を認識

### ■ 課題

- LEAPの困難さ
  - 原材料のトレーサビリティ確保
  - 「自然の状態」を何で測るか
- バリューチェーンの依存・影響の特定が困難
- リスク・機会の特定も困難

# LEAPアプローチ



## C スコーピング

### L 発見する 自然との接点

### E 診断する 依存関係と影響

### A 評価する 重要なリスクと機会

### P 準備する 対応し報告する

<b>L1</b> <b>ビジネスの</b> <b>フットプリン</b> <b>ト</b>	当社の直接の資産とオペレーションはどこにあるのか、 <b>当社に関連するバリューチェーン（上流と下流）活動はどこにあるのか？</b>
<b>L2</b> <b>自然との接点</b>	これらのアクティビティが接点を持っている生物群系や生態系は <b>どれか？</b> <b>各地域の生態系の現在の完全性と重要性は何か？</b>
<b>L3</b> <b>優先地域の</b> <b>特定</b>	組織とそのバリューチェーンは、どの場所で生態系の完全性が高い地域、急速に低下している地域、生物多様性の重要性が高い地域、水ストレスを抱えている地域、および/または <b>重大な依存関係や影響が潜在している地域で活動しているか？</b>
<b>L4</b> <b>セクターの</b> <b>特定</b>	どのセクター、事業部門、バリューチェーン、アセットクラスがこのような優先地域で <b>自然と接点を持つか？</b>

<b>E1</b> <b>関連する環境</b> <b>資産と生態系</b> <b>サービスの</b> <b>特定</b>	各優先地域で行われている自社のビジネスプロセスと活動は <b>何か？</b> <b>各優先地域での環境資産と生態系サービスに依存関係あるいは影響があるか？</b>
<b>E2</b> <b>依存関係と</b> <b>影響の特定</b>	各優先地域において、当社の事業全体に関わる自然関連の依存関係や影響は <b>何か？</b>
<b>E3</b> <b>依存関係の</b> <b>分析</b>	各優先地域における <b>自然への依存関係の規模、程度はどの程度か？</b>
<b>E4</b> <b>影響の</b> <b>分析</b>	各優先地域における <b>自然への影響の規模、程度はどの程度か？</b>

<b>A1</b> <b>リスクと機会の</b> <b>特定と評価</b>	当社の <b>組織に対応するリスクと機会</b> は何か？
<b>A2</b> <b>既存リスクの</b> <b>軽減と</b> <b>リスクと機会の</b> <b>管理</b>	既存のリスクを軽減・リスクと機会を管理する <b>アプローチで、すでに適用しているものは何か？</b>
<b>A3</b> <b>追加リスクの</b> <b>軽減と</b> <b>リスクと機会の</b> <b>管理</b>	追加で検討すべき <b>リスク軽減・リスクと機会を管理する行動</b> は何か？
<b>A4</b> <b>リスクと機会の</b> <b>重要性の評価</b>	重要なリスクと機会と、TNFDの開示提案に沿って開示すべき <b>リスクと機会</b> は何か？

### 戦略とリソース配分

<b>P1</b> <b>戦略と</b> <b>リソース配分</b>	この分析の結果、下すべき <b>戦略と資源配分の決定</b> は何か？
<b>P2</b> <b>パフォーマンス</b> <b>測定</b>	どのように <b>目標を設定し進捗度を定義・測定</b> するのか？

### 開示アクション

<b>P3</b> <b>報告</b>	TNFD開示提案に沿って、 <b>何を開示</b> するのか？
<b>P4</b> <b>公表</b>	自然に関する開示は <b>どこで、どのように</b> 提示するのか？

# 木材調達サイクルの拡張 (TNFD/LEAPの統合)



## 課題認識

- ・森林破壊、人権など

## デューデリ ジェンス

- ・森林認証  
・現地確認など

## 調達方針

## トレーサビリティ

## LEAPによる再評価

- トレーサビリティ：L
- 木材利用：依存
- 課題認識：影響・リスク
- 森林認証：機会



新たなリスク・機会の発見  
調達方針、対応の見直し

## 課題の再定義と リスク・機会の特定

## 新たなリス クと機会の 抽出

## Locate

詳細なトレーサ  
ビリティ

## 依存・影響の分 析

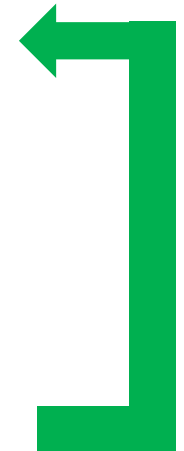
初期の課題認識に基づくサイクル

既存の調達サイクルを前提としつつ、  
TNFDにより課題を再定義し、方針にフィードバックする

# LEAPを踏まえた対応方針の検討



LEAPを踏まえた対応方針の検討	
LEAPで特定される論点	<ul style="list-style-type: none"><li>• 優先地域</li><li>• 依存・影響（水、生物多様性等）</li><li>• 新たなリスク（供給、財務等）</li><li>• 機会</li></ul>
現行方針での対応状況	<ul style="list-style-type: none"><li>• 既存の木材調達方針でカバーされているか</li><li>• 現行のトレーサビリティで「Locate」の代替となるか</li><li>• LEAPで特定したリスクの管理手法となっているか</li></ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"><li>• 調達方針で対応（確認方法強化、対象拡大（例：水、生物多様性）</li><li>• 調達方針外で対応（個別施策、自然移行計画など）</li><li>• ネイチャーポジティブへの貢献を評価、ギャップがあれば追加対応</li></ul>



- このサイクルは1度ではなく、何度も回す
- 「今後の対応」は毎年行うものではなく、タイミングは各社次第
- 「開示」からバックキャストせず、サイクルを回してから開示内容を検討する

# 今後の期待



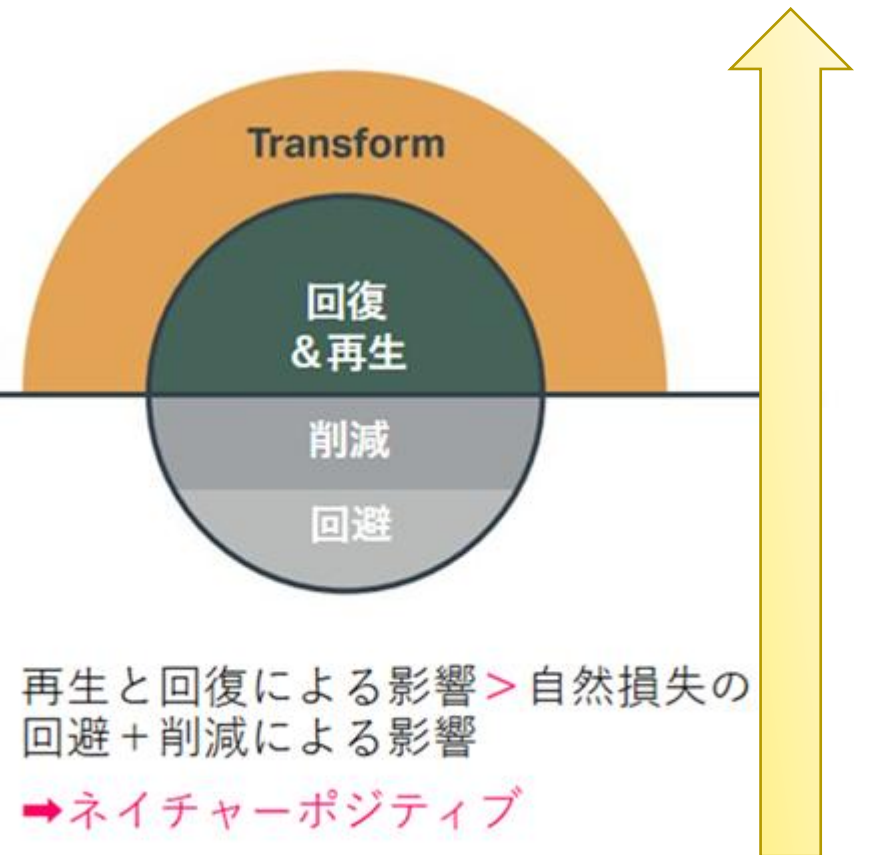
## ミティゲーションヒエラルキーを踏まえたネイチャーポジティブの取り組み 木材調達方針を包含したNature Transition Plan(移行計画)の策定

ランドスケープレベル  
自然移行計画

- 森林再生による生態系回復
- 生息地の連結性回復
- 絶滅危惧種の保護
- 気候条件に適応した在来樹種の植栽
- 土壌、森林における炭素除去の促進

- 生物多様性の価値が高い場所、水域、HCVなど要注意地域の保全
- 直接操業およびバリューチェーン上の土地転換／森林破壊の回避
- 森林認証制度の利用
- 違法伐採対策

Nature



サイトレベル  
木材調達方針

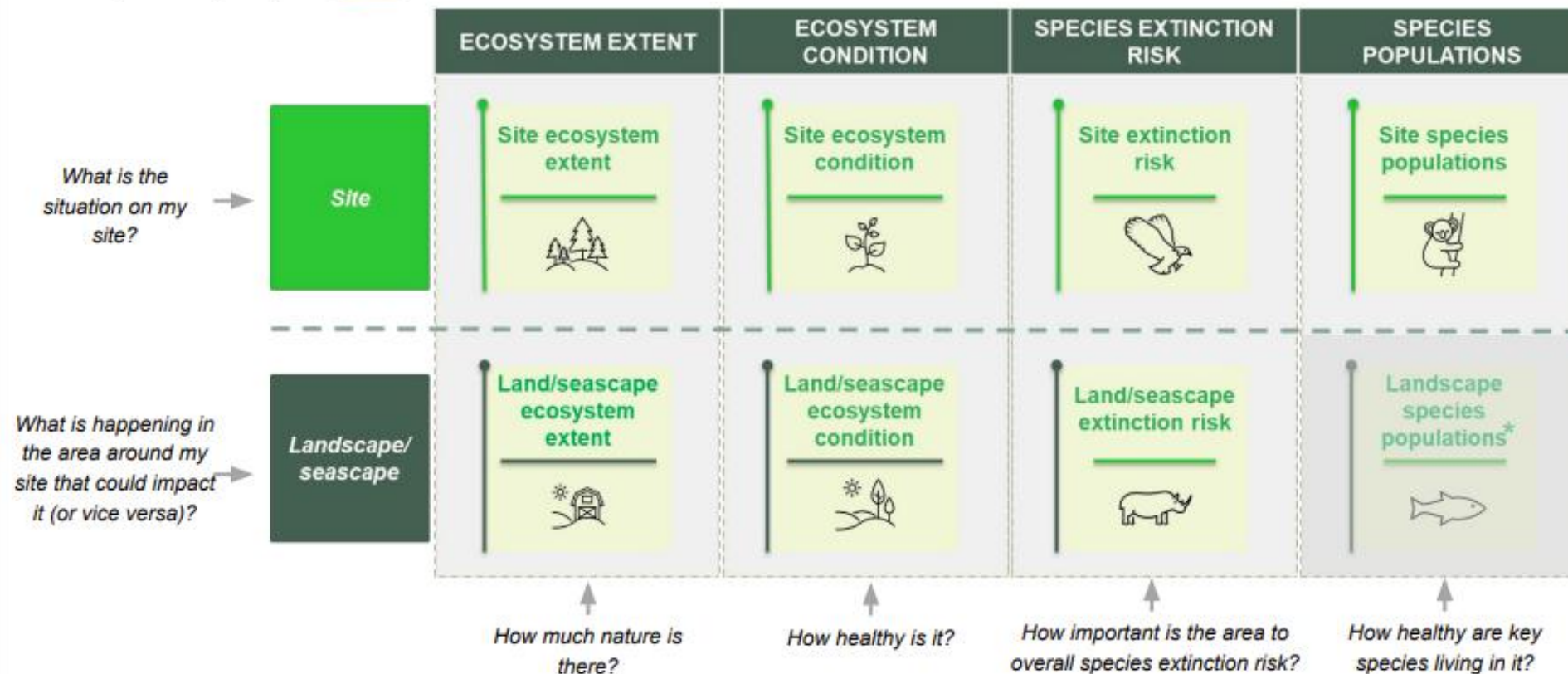
LEAPの(L)／トレーサビリティがベース

# Nature Positive Initiative (NPI) による 「自然の状態 (State of Nature)」 指標ドラフト



## High-level output: Indicator framework

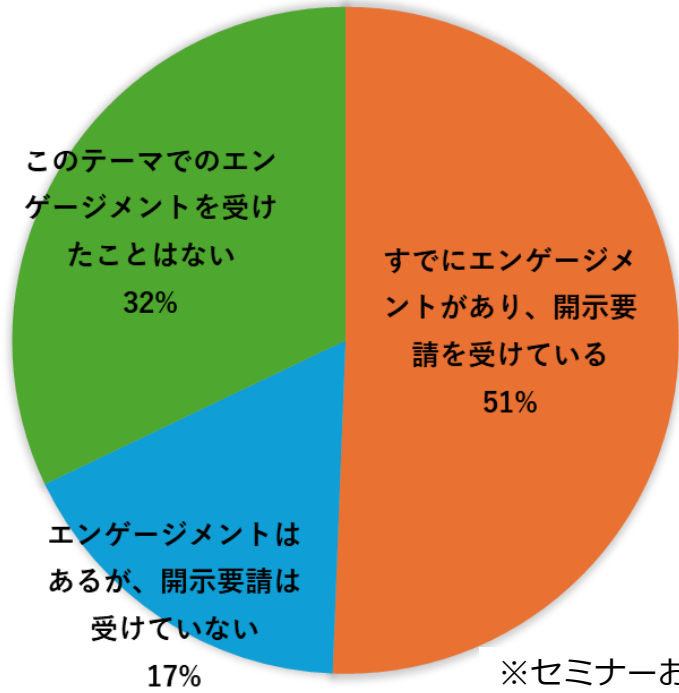
Indicators are defined as: "A quantitative or qualitative factor or variable that provides a simple and reliable means to measure performance." An indicator can be measured through one or multiple metrics" (as adopted by [TNFD](#)).



# 金融機関の関心



## 事前アンケート：森林コモディティに関する 金融機関からのエンゲージメント状況



※セミナーお申込者のうち、  
森林コモディティ扱いのある企業 (n=81)

■「ネイチャーポジティブに向けた投融資チェックリスト」  
金融機関による自然分野の投融資先エンゲージメントが進展

ただし、

- エンゲージメントするセクターが多様
- セクター毎、企業毎の取組進捗に大きな差異
- 金融機関は何を聞いたら良いか判断が難しい

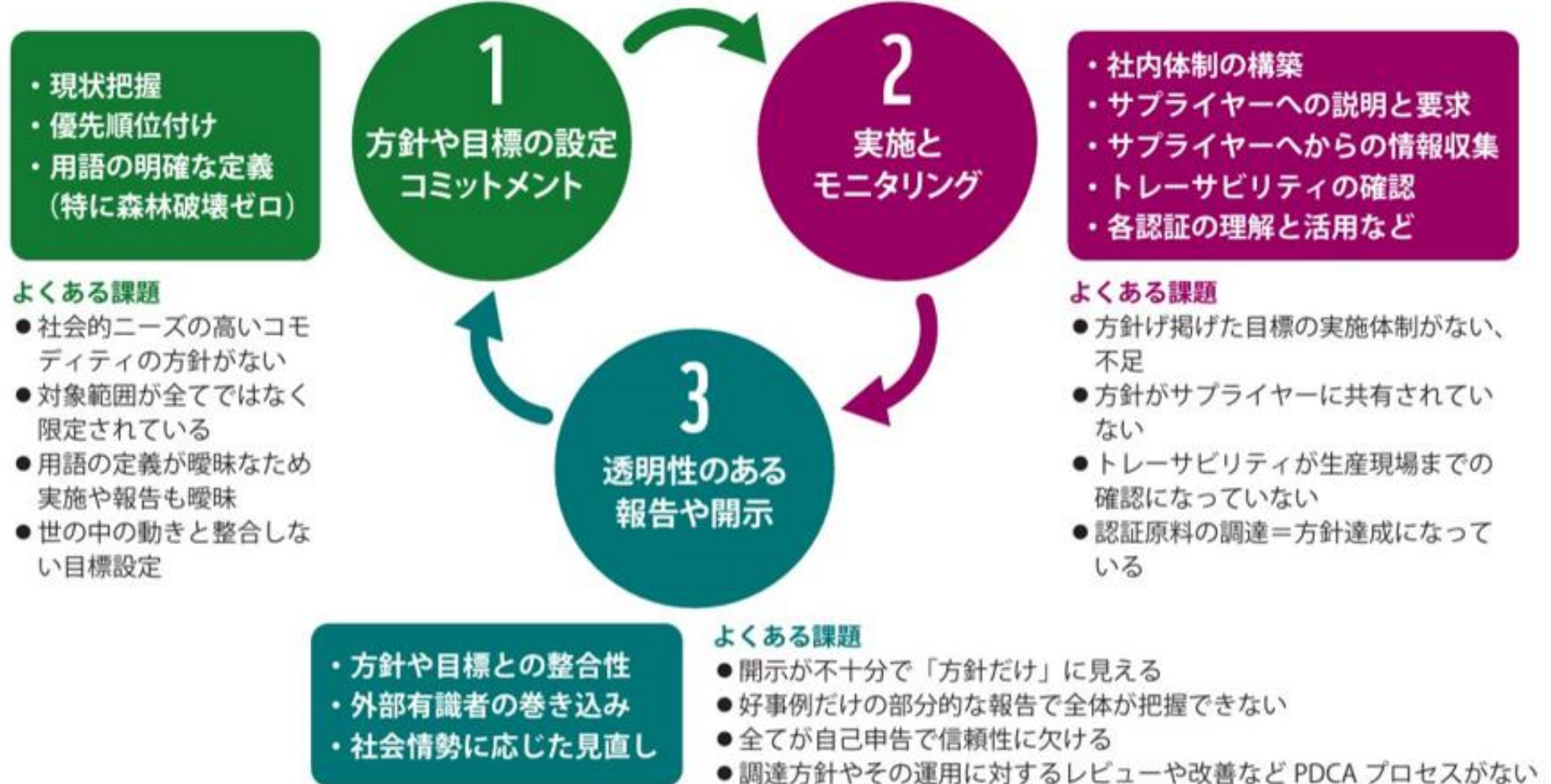
■WWFのチェックリスト

- 事業会社に一定の取組があるコモディティに注目したチェックリスト
- 自然関連リスクの多い「バリューチェーン」を主対象
- 指標に難易度を設定
- 現時点の必須項目と将来課題を明確化

<https://www.wwf.or.jp/activities/lib/6034.html>



# 将来像は見つつも



- ・まずは木材調達方針の運用と目標達成
- ・木材調達方針でカバーしていない課題の認識プロセスにTNFDを活用
- ・「調達木材が自社方針に適合しているか？」  
⇒「木材を安定的に利用できるか？」 「ネイチャーポジティブに向かっているか？」

# together possible™

ご質問などあればいつでもお問い合わせください。

[sustainable.finance@wwf.or.jp](mailto:sustainable.finance@wwf.or.jp)



Working to sustain the natural world for the benefit of people and wildlife.

together possible™ panda.org

本資料は、2026年4月23日までに公表されている資料等に基づき作成されています。今後の内容の変更等にご留意下さい。本資料の無断転載・複写を禁じます。